

令和6年度

鶴山保育所における自己評価の結果

段階は3段階で行います

- A：達成できている
- B：おおむねできている
- C：改善を要する

〈評価の表示について〉

- ・職員のによる自己評価を行い評価の割合が高かったものをA、B、Cで表示しています。
- ・課題・改善の必要な事項については、特記事項に記載しています。

◎保育の計画の編成と実施に関する評価

項目	内容	評価	特記事項
保育所の重点項目	重点目標 ①子どもの思いを受け止め、保育士の思いを返す営みを繰り返しながら、子どもが安心感を持って生活し、自尊感情や自己肯定感を育てる。 ②子どもが主体的、意欲的に生活やあそびができるよう、環境を整える。 ③一人一人の子どもが意欲的に生活ができるよう適切な配慮や援助を行い、共に育ちあう保育を進める。		
	職員は重点目標を理解し保育を進めた	A	
保育について	(1)市営保育所の保育の理念、保育の目的、保育の目標を理解し全体的な計画(保育の計画)の作成には職員が参加している	A	・環境は意識してきたが、よりよい環境を目指し、必要だと感じた準備をより具体的に考え、工夫していくことを確認した。
	(2)市営保育所の保育の理念、保育の目的、保育の目標を基本に各保育所の保育方針を作成している	A	
	(3)期別年間計画は乳幼児の実態に即して作成している	A	
	(4)保育所保育指針に基づく援助・支援を適切に行っている	A	
	(5)環境の構成を意識した保育を常に意識している	B	
	(6)生活や遊びに必要な素材・用具を適切に活用している	B	
	(7)一日の流れ(デイリープログラム等)は適切である	A	
行事について	(1)行事の種類や実施回数は適切である	B	・特に年長児の行事は交流もあるので、子どもにとって無理がないか、どのようなねらいを持つか等、今後も丁寧に考えていく。
	(2)行事のねらいを計画や実施に十分生かしている	B	
	(4)計画・実施・評価・改善をしている	A	

◎保育の計画の編成と実施を支える諸条件に関する評価

項目	内容	評価	特記事項
経営・組織	分掌・体制	(1)能率的、合理的な運営組織になっている	B ・幼児の行事が多く、幼児の職員が中心になるが、保育所全体で取り組んでいく意識をより高めていく。 乳児職員や担当以外の職員も積極的に関わり、負担が偏ってしまわないように取り組むことを確認しあった。
		(2)職務内容が明確で、協働できる体制になっている	
		(3)職員の配置は適材・適所である	
		(4)係や仕事の分担・割り当ては適切である	
	運営	(1)各種会議を適切かつ効率的に進めている	A B A
		(2)職員相互がそれぞれ全体的立場を理解し、協力や助言を惜しむことなく施設の運営に関わっている	
		(3)打合せ回数、時間、内容は適切である	
	クラス運営	(1)年齢別目標・クラス目標(クラス目標)は保育目標や重点目標に基づいて設定している	A A B B A
		(2)年齢別目標・クラス目標は、乳幼児の実態に即して適切に設定している	
		(3)同年齢及び異年齢間間の効果的な活動の充実を図っている	
		(4)意義や趣旨を話し合った同僚性のある保育を行っている	
		(5)反省評価、諸記録などの資料を整理・集積し保育の見直しに生かしている	
	保健・安全指導	(1)保育所運営に生かされるような具体的保健対策を講じている	A A B A
		(2)避難訓練・交通安全指導を計画に基づいて適切に実施している	
		(3)健康・安全な生活に必要な習慣や態度育成のため、家庭への啓発を行っている	
		(4)乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っている	
研修・研究	所内研修・研究	(1)職場での研修は、保育目標の具体化につながるものである	A A B A A
		(2)所内研修の計画・運営は適切である	
		(3)研究の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映されている	
		(4)研究の実践による乳幼児の理解が深まっている	
		(5)保育士の自己評価チェックシートを用いて、個々の振り返りを保育にいかしているか	
	所外	(1)各種研究会、研修会、講習会への参加の充実を図っている	A A
		(2)各種研究会、研修会、講習会での内容を所内に還元している	

項目		内容	評価	特記事項
情 報 に て		(1)乳幼児や保護者に関する個人情報を適切に取り扱っている	A	
		(2)守秘義務の遵守を全員に周知している	A	
施 設 ・ 設 備		(1)施設内外・設備の安全点検を計画的に行っている	A	
		(2)遊具・用具等を、活用しやすいように整理・保管している	B	
		(3)不審者等に対応する周到な配慮を行っている	A	
開 か れ た 保 育 所 づ く り	施 設 間 交 流 ・ 連 携	(1)他施設等との年間交流は保育目標や課題に沿ったものになっている	A	・年長児については、小学校や幼稚園と年間を通しての交流を行っている。また、児童館のイベントに参加し、小学生等との交流を行っている。
		(2)他施設等の児童と触れ合う中で、楽しく過ごし充実感を味わうことができるような配慮や援助・支援を行っている	A	
		(3)指導者同士が、打合せや事前研修・合同研修を行い、互いの保育・教育に対する理解を深め、援助について共通理解を図っている	A	
		(4)参観や保育・授業等に参加するなどして、幼稚園・小学校の教育を理解している	A	
		(5)日常的に情報を交換し、それを交流活動に生かしている	A	
	家 庭 や 地 域 と の 連 携	(1)参観(参加)や保育所見学を制限せず、保護者以外も対象にしている	A	・子どもは直接参加していないが、保育所として地域のイベント(上京こどもまつり、出町商店街の七夕かざり、地域の大学のイベント)等に参加している。 ・保護者の参加については、広さや内容によっては制限をしているものもある。
		(2)保護者を含む地域の人材を活用している	B	
		(3)乳幼児の興味や関心に基づいて地域社会・その他の施設と交流している	B	
		(4)地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れている	B	
	子 育 て 支 援 の 推 進	(1)地域の子育て支援施設として、園庭や保育室を開放している	A	
		(2)地域に住む子ども同士、あるいは親子が一緒に遊ぶことができるような場所の設定を行っている	A	
		(3)「子育てについて」など、保護者を対象とした学習の機会を設定している	A	
		(4)職員による育児に係る「子育て相談」は充実している	A	
		(5)医療関係、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供している	A	
	情 報 の 発 信	(1)保育所だより・クラスだより、ホームページ等で施設の情報を発信している	A	
		(2)行事や子育て支援事業等を、地域の連絡会や児童施設、小学校に対して周知している	A	
	外 部 評 価	(1)第三者評価を導入し、施設運営に反映している	A	
		(2)地域や保護者の意見を施設運営に反映している	A	